

小中一貫校(豊田中学区)整備等に関する基本構想

1	具体化に必要な課題と方向性の整理	1
2	小中一貫校整備等に関する基本構想	3
資	参考資料 ※別冊となっています	
	資一1 豊田中学区におけるアンケート調査結果の概要	
	資一2 豊田中学区における説明会の結果概要	

平成 27 年 3 月

小 山 市

1 具体化に必要な課題と方向性の整理

アンケート調査及び説明会の結果から得られた、小中一貫校及び学校適正配置等の具体化に必要な課題や方向性を整理したものは、以下のとおりです

1 学校の設備・機能等の充実

- 豊田南小や豊田北小では、保護者がPTA活動や学校行事等で訪れたときや、児童を送迎するための駐車場が不足しているとの意見がありました。
- 新設校においては、子どもや教職員に必要な設備・機能を充実させるだけでなく、地域や保護者の意見を聞きながら、地域や保護者が利用するための設備や機能を充実させることも課題となります。

2 通学距離・通学時間が長くなる児童の通学手段の確保

- 豊田南小と豊田北小を統合し、豊田中と小中一貫校に適した位置に新設校を設置した場合においても、児童の通学距離は適正距離（おおむね4km以内）となりますが、豊田南小西部や豊田北小北部では、現在よりも児童の通学距離や通学時間が長くなります。
- アンケート調査結果では、スクールバスの導入を求める意見が一番多いことから、保護者の意向等を確認しながらスクールバス等の通学手段を確保することが課題となります。

3 通学路の利便性向上と安全性確保

- 豊田南小と豊田北小を統合し、豊田中と小中一貫校に適した位置に新設校を設置した場合、通学路が変更される地区があります。
- 今後も児童が安心・安全に通学できるようにするため、新たな通学路や既存の通学路を含め、通学路の利便性を向上させ、安全性を確保することが課題となります。

4 きめ細やかな指導の確保や児童と教師が交流する機会の充実

- 豊田南小と豊田北小を統合した場合、児童数が増加することから、引き続き、きめ細やかな指導を確保するとともに、児童と教職員が交流する機会を充実させていくことが課題となります。
- また、将来的にクラス替えのない単学級が発生した場合、9年間にわたって人間関係が固定化される可能性があることから、幅広く多様な人間関係を構築できるようにすることが課題になると考えられます。

5 学校行事、児童活動、部活動等の充実

- 現在、豊田南小や豊田北小では、児童数が不足し、学校行事や児童活動、部活動等を活発に行えない状況にあります。特に、部活動の人数や種類が不足し、部活動の選択肢が少なくなっています。
- 一定の児童数を確保し、学校行事や児童活動、部活動等を充実させることが課題となります。

6 小中一貫校移行時の児童の精神的な負担の軽減

- 豊田南小と豊田北小を統合し、豊田中との小中一貫校とした場合、児童数や教員数が増える、通学していた学校が変わる、通学路及び通学手段が変わるなど、急激な教育環境の変化が予想されます。
- こうした教育環境の変化に対する児童の精神的な負担を軽減することが課題となります。

7 学校跡地の活用方法の検討

- 豊田南小と豊田北小を統合して新設校を建設した場合、施設や敷地等の学校跡地の活用方法を検討することが市全体の課題となります。
- また、閉校となる学校の歴史や思い出がなくならないようにしていくことも課題となります。

8 地元の意見を聞く機会の継続・充実

- アンケート調査結果では、「今後も地元の意見を聞く機会が必要」という意見があったことから、小中一貫校や学校適正配置等の具体化にあたっては、必要に応じて、地元の意見を聞く機会を継続・充実し、地域が一体となって新設校について考えていくことが課題となります。

9 小中一貫校や学校適正配置等に関する情報提供の充実

- アンケート調査結果では、「もっと詳しく知りたい」という意見が多かったことや、説明会では、小中一貫校や学校適正配置等に関する効果、課題、スケジュール等を知りたいという質問が多かったことから、周知・PRが不足していると考えられます。
- 今後は、「会報」、「広報おやま」や市のホームページなど、様々な機会を通じて、保護者や自治会等の地域住民に小中一貫校や学校適正配置等に関する情報提供を行っていくことが課題となります。

2 小中一貫校整備等に関する基本構想

具体化に必要な課題や方向性を踏まえ、小中一貫校整備等に関する基本構想として以下のとおり整理しました。

1. 小中一貫校整備等に関する基本的な考え方

1) 小中一貫校の位置、名称、施設形態の基本的な考え方

■ 位置

- 豊田南小と豊田北小を、豊田中との小中一貫校に適した位置に1つの新設校として設置します。

■ 名称

- 地域の意見を聞きながら、全国の事例も参考にして、地域にふさわしい学校の名称とします。

■ 施設形態

- 既存の豊田中の校舎を活かしつつ、小中一貫教育の成果をより得られるようにするため、施設近接型小中一貫校を目指します。

2) 整備の基本的な考え方

■ 小中一貫校に適した快適な施設づくり

- 小中一貫校の特色を活かしつつ、児童が効果的に学習し、快適な学校生活を送ることができる施設づくりを基本とします。

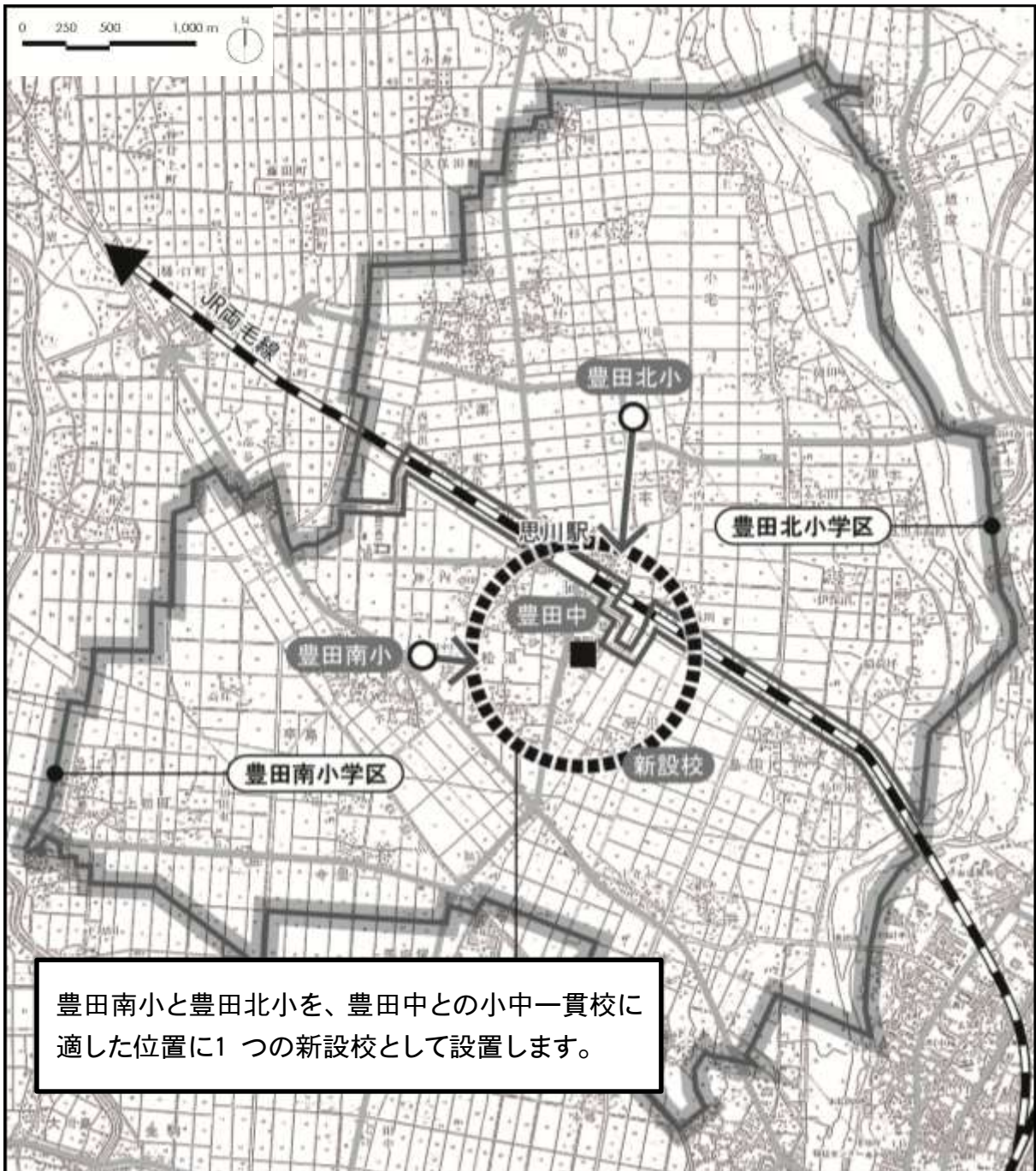
■ 安心・安全に通学できる環境づくり

- 児童の利便性を確保しながら、安心・安全に通学できる環境づくりを基本とします。

■ 地域の意見を反映する体制づくり

- 地域の代表者などで構成する小山市小中一貫校(豊田中学区)推進委員会の中で引き続き検討を重ねるとともに、本小中一貫校(豊田中学区)整備等に関する基本構想を基本とした統合及び小中一貫校の実現を推進します。

■ 豊田中学区小中一貫校の位置



2. 小中一貫校整備に関する基本方針

1) 施設整備の基本方針

【小中一貫校に適した快適な施設づくり】

(1) 校舎

- 既存の豊田中の校舎と連携がとりやすい、小中一貫校に適した校舎を整備します。
- 児童・生徒や教職員、地域住民が交流するための設備・機能等を検討します。

(2) 体育館、プール、グラウンド等

- 既存の豊田中の施設と連携がとりやすいよう、新設校の敷地内に体育館、プール、グラウンド等を整備します。

(3) バス停、駐車場等

- 新設校の敷地内にスクールバスの停留所や駐車場等を整備します。
- 学校行事等で訪れる来賓や保護者用の駐車場や、急病・急用等の緊急時に保護者が児童を送迎するための停車スペースなどの確保を検討します。
- 児童や教職員が小学校と中学校の校舎間を移動しやすい方法を検討します。

2) 通学環境整備の基本方針

【安全・安心して通学できる環境づくり】

(1) スクールバス

- 学校の統合により、通学距離及び通学時間が長くなる児童のため、スクールバスを導入します。
- スクールバスの導入にあたっては、地域の意見を聞きながら、台数、ルート、料金等を検討します。
- スクールバスの通行が困難な箇所について、道路や交差点等の改良を検討します。
[例：道路の拡幅、隅切りの設置 等]

(2) 通学路

- 児童が安心・安全に通学できるようにするため、通学路における交差点の改良、両毛線横断方法及び歩行者空間の確保を検討します。
[例：信号機・横断歩道の設置、注意喚起の路面標示・看板設置
歩道・グリーンベルトの設置 等]
- 防犯対策として、暗く危険な箇所への防犯灯の設置を検討します。

3. その他の留意事項

1) 地元意向反映と情報提供

■ 地区の代表者が出席する会議や説明会の開催

- 地域の意見を聞きながら小中一貫校の具体化を進めるため、地区の代表者が出席する会議や説明会の開催を検討します。

■ 小中一貫校や学校適正配置等に関する情報提供

- 「(仮称) 豊田地区統合小学校建設推進委員会会報」、「広報おやま」や市のホームページにより、進捗状況やスケジュール等に関する情報提供の充実を検討します。

■ 学校に求められるその他の施設

- 学童保育や放課後こども教室、防災設備等の整備を検討します。

2) 統合に向けた段階的な教育環境づくり

■ 学校行事等の合同開催

- 豊田南小、豊田北小、豊田中が合同で学校行事等に取り組む機会を増やし、児童が徐々に小中一貫校の環境に慣れるような配慮を検討します。

3) 学校跡地利用等の検討

■ 学校跡地の有効活用

- 豊田南小と豊田北小の学校跡地を有効活用するため、地域の意見を聞きながら、施設・敷地等の利用方法や維持・管理方法等を市全体で検討します。

■ 学校の歴史や思い出の継承

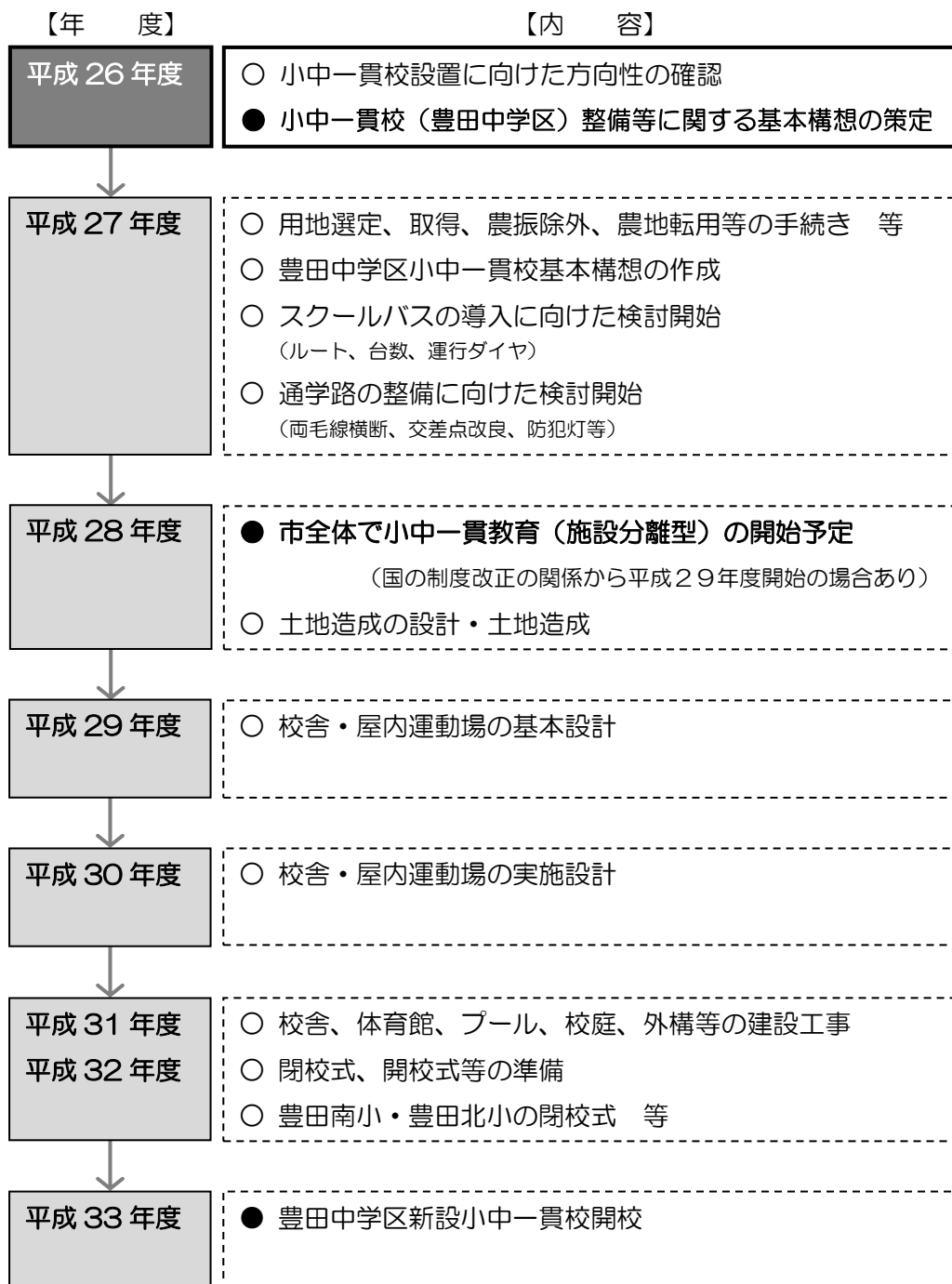
- 閉校となる学校の歴史や思い出を継承する方法を検討します。

4. 今後のスケジュール（案）

豊田中学区における小中一貫校の具体化にあたっては、地域（保護者、自治会等）の意見を反映し、地域が一体となって課題を解決しながら、検討作業や準備を進めていきます。

なお、最短で進んだ場合の今後のスケジュール（案）は、以下のとおりです。

■ 今後のスケジュール（案）：最短で進んだ場合



地域の意見反映と課題解決

連絡先／小山市教育委員会 教育総務課

〒323-8686 栃木県小山市中央町1丁目1番1号

TEL 0285-22-9658 FAX 0285-22-9650

URL <http://www.city.oyama.tochigi.jp/>

・平成27年3月 初版

・平成27年7月 第2版